航空従事者学科試験問題　　P4

資　格	定期運送用操縦士（飛）(回)(船) 准定期運送用操縦士(飛)	題数及び時間	２０題　　４０分
科　目	航空法規等〔科目コード：０４〕	記　　号	ＣＣＣＣ０４１８３０

◎ 注　　意（１）「航空従事者学科試験答案用紙」（マークシート）の所定の欄に、「受験番号」、「受験番号のマーク」、「科目」、「科目コード」、「科目コードのマーク」、「資格」、「種類」、「氏名」及び「生年月日」を記入すること。

「受験番号」、「受験番号のマーク」、「科目コード」及び「科目コードのマーク」の何れかに誤りがあると、コンピュータによる採点処理が不可能となるので当該科目は不合格となります。

（２）解答は「航空従事者学科試験答案用紙」（マークシート）に記入すること。

◎ 配　　点　　１問　５点

◎ 判定基準　　合格は１００点満点の７０点以上とする。

問 １　国際民間航空条約の条文で誤りはどれか。
（１）第２条（領域）
この条約の適用上、国の領域とは、その国の主権、宗主権、保護又は委任統治の下にある陸地及びこれに隣接する領水をいう。
（２）第３条（民間航空機及び国の航空機）
この条約は、民間航空機及び国の航空機に適用する。
（３）第６条（定期航空業務）
定期国際航空業務は、締約国の特別の許可その他の許可を受け、且つ、その許可の条件に従う場合を除く外、その締約国の領域の上空を通つて又はその領域に乗り入れて行うことができない。
（４）第２０条（記号の表示）
国際航空に従事するすべての航空機は、その適正な国籍及び登録の記号を掲げなければならない。

問 ２　国際民間航空機関が採択する国際標準並びに勧告される方式及び手続きで誤りはどれか。
（１）通信組織及び航空保安施設（地上標識を含む。）
（２）運賃及び運送約款
（３）空港及び着陸場の性質
（４）航空規則及び航空交通管制方式

問 ３　定期運送用操縦士が旅客を運送する航空運送事業の用に供する航空機に乗り組んで操縦する場合の航空身体検査証明の有効期間で正しいものはどれか。
（１）２人の操縦者でその操縦を行う場合、交付日における年齢が４０歳未満の者は３年間である。
（２）２人の操縦者でその操縦を行う場合、交付日における年齢が４０歳以上の者は２年間である。
（３）２人の操縦者でその操縦を行う場合、交付日における年齢が６０歳未満の者は１年間である。
（４）２人の操縦者でその操縦を行う場合、交付日における年齢が６０歳以上の者は９ケ月間である。

問 ４　航空運送事業の用に供する航空機に搭載が義務づけられている書類（ａ）～（ｄ）の正誤の組み合わせで正しいものはどれか。

（ａ）航空機登録証明書
（ｂ）運用限界等指定書
（ｃ）運航規程
（ｄ）整備規程

	（ａ）	（ｂ）	（ｃ）	（ｄ）
（１）	誤	誤	正	正
（２）	正	正	誤	誤
（３）	誤	誤	誤	正
（４）	正	正	正	誤

問 ５　機長の権限等で誤りはどれか。
（１）航空機又は旅客の危難が生じた場合又は危難が生ずるおそれがあると認める場合は、航空機内にある旅客に対し、避難の方法その他安全のため必要な事項について命令をすることができる。
（２）航空機内外を問わず航空機の安全を阻害するいかなる者も拘束できる。
（３）航空機の航行中、その航空機に急迫した危難が生じた場合には、旅客の救助及び地上又は水上の人又は物件に対する危難の防止に必要な手段を尽くさなければならない。
（４）当該航空機に乗り組んでその職務を行う者を指揮監督する。

問６　３，０００メートル以上の高度で飛行する航空機に適合する有視界気象状態の条件で誤りはどれか。
（１）飛行視程が８，０００メートル以上であること。
（２）航空機からの垂直距離が上方に１５０メートルである範囲内に雲がないこと。
（３）航空機からの垂直距離が下方に３００メートルである範囲内に雲がないこと。
（４）航空機からの水平距離が１，５００メートルである範囲内に雲がないこと。

問７　航空障害灯の種類（ａ）～（ｄ）のうち、閃光により示されるものはいくつあるか。（１）～（４）の中から選べ。

（ａ）高光度航空障害灯
（ｂ）中光度白色航空障害灯
（ｃ）中光度赤色航空障害灯
（ｄ）低光度航空障害灯

（１）　１　　（２）　２　　（３）　３　　（４）　４

問８　空港等付近の航行方法について誤りはどれか。
（１）計器飛行方式により離陸しようとする場合であつて空港等における気象状態が離陸することができる最低の気象条件未満であるときは、離陸のための代替空港等を指定し国土交通大臣の許可を得た後離陸すること。
（２）計器飛行方式により着陸しようとする場合であつて進入限界高度よりも高い高度の特定の地点を通過する時点において空港等における気象状態が当該空港等への着陸のための進入を継続することができる最低の気象条件未満であるときは、着陸のための進入を継続しないこと。
（３）計器飛行方式により着陸しようとする場合であつて進入限界高度以下の高度において目視物標を引き続き視認かつ識別することによる当該航空機の位置の確認ができなくなつたときは、着陸のための進入を継続しないこと。
（４）他の航空機に続いて着陸しようとする場合には、その航空機が着陸して着陸帯の外に出る前に、着陸のために当該空港等の区域内に進入しないこと。

問９　航空法施行規則第１６４条の１５（出発前の確認）の条項に含まれない事項はどれか。
（１）当該航空機及びこれに装備すべきものの整備状況
（２）離陸重量、着陸重量、重心位置及び重量分布
（３）離陸、離陸に引き続く上昇、着陸のための進入及び着陸手順
（４）燃料及び滑油の搭載量及びその品質

問１０　航空法施行規則第１５４条（航空機の灯火）で航空機が夜間において空中を航行する場合に航空機が表示しなければならない灯火として正しいものはどれか。
（１）右舷灯、左舷灯、衝突防止灯
（２）右舷灯、左舷灯、着陸灯
（３）右舷灯、左舷灯、尾灯、衝突防止灯
（４）右舷灯、左舷灯、尾灯、着陸灯

問１１　航空法第６５条（航空機に乗り組ませなければならない者）において、機長以外に当該航空機を操縦できる者を乗り組ませなければならないもので誤りはどれか。
（１）構造上、その操縦のために２人を要する航空機
（２）特定の方法又は方式により飛行する場合に限りその操縦のために２人を要する航空機であつて当該特定の方法又は方式により飛行するもの
（３）旅客の運送の用に供する航空機で計器飛行方式により飛行するもの
（４）旅客の運送の用に供する航空機で飛行時間が３時間を超えるもの

問１２　航空運送事業の用に供する航空機の運航に従事する操縦者に係る最近の飛行経験で正しいものはどれか。
（１）操縦する日からさかのぼつて９０日までの間に、当該航空運送事業の用に供する航空機と同じ型式の航空機に乗り組んで離陸及び着陸をそれぞれ３回以上行つた経験
（２）計器飛行を行う航空機乗組員は、操縦する日からさかのぼつて１８０日までの間に５時間以上の計器飛行（模擬計器飛行を含む。）を行つた経験
（３）計器飛行を行う航空機乗組員は、操縦する日からさかのぼつて９０日までの間に３時間以上の計器飛行（模擬計器飛行を含む。）を行つた経験
（４）操縦する日からさかのぼつて１２０日までの間に、当該航空運送事業の用に供する航空機と同じ型式の航空機に乗り組んで離陸及び着陸をそれぞれ１回以上行つた経験

問１３　航空法施行規則第１６４条の１６（安全阻害行為等の禁止）に該当しないものはどれか。
（１）乗降口又は非常口の扉の開閉装置を正当な理由なく操作する行為
（２）機内に持ち込んだ飲食物を飲食する行為
（３）航空機の運航の安全に支障を及ぼすおそれがある携帯電話その他の電子機器であつて国土交通大臣が告示で定めるものを正当な理由なく作動させる行為
（４）手荷物を通路その他非常時における脱出の妨げとなるおそれがある場所に正当な理由なく置く行為

問１４　航空法施行規則第１６６条の４（事故が発生するおそれがあると認められる事態の報告）による事態で、誤りはどれか。
（１）閉鎖中の又は他の航空機が使用中の滑走路への着陸又はその試み
（２）航空機内の気圧の異常な低下
（３）天候による出発時刻の遅延
（４）航空機乗組員が負傷又は疾病により運航中に正常に業務を行うことができなかつた事態

問１５　航空法第８１条の２（捜索又は救助のための特例）による国土交通省令で定める航空機が航空機の事故、海難その他の事故に際し捜索又は救助のために行う航行で適用を除外される行為（ａ）～（ｄ）のうち、正しいものはいくつあるか。（１）～（４）の中から選べ。

（ａ）航空法第７９条（離着陸の場所）
（ｂ）航空法第８０条（飛行の禁止区域）
（ｃ）航空法第８１条（最低安全高度）
（ｄ）航空法第８９条（物件の投下）

（１）　１　　（２）　２　　（３）　３　　（４）　４

問１６　航空法第８３条の２に定める特別な方式による航行の許可の基準の記述で誤りはどれか。
（１）航空機が特別な方式による航行に必要な性能及び装置を有していること。
（２）航空機乗組員、航空機の整備に従事する者及び運航管理者が当該特別な方式による航行に必要な知識及び経験を有していること。
（３）実施要領が特別な方式による航行の区分及び航空機の区分に応じて、適切に定められていること。
（４）その他航空機の航行の安全を確保するために必要な措置が講じられていること。

問１７　航空法施行規則第２０３条（飛行計画等）で、明らかにしなければならない事項で誤りはどれか。
（１）出発地及び離陸予定時刻
（２）巡航高度及び航路
（３）巡航高度における真対気速度
（４）最初の着陸地及び離陸した後、当該着陸地の上空に到着するまでの所要時間

問１８　運航規程に記載する必要のある事項で誤りはどれか。
（１）航空機の操作及び点検の方法
（２）最低安全飛行高度
（３）装備品、部品及び救急用具が正常でない場合における航空機の運用許容基準
（４）装備品等の限界使用時間

問１９　本邦航空運送事業者の記述で誤りはどれか。
（１）本邦航空運送事業者は、旅客及び貨物の運賃及び料金を定め、あらかじめ、国土交通大臣に届け出なければならない。
（２）本邦航空運送事業者は、安全管理規程を定め、国土交通大臣の認可を受けなければならない。
（３）本邦航空運送事業者は、運送約款を定め、国土交通大臣の認可を受けなければならない。
（４）本邦航空運送事業者は、航空機の運航及び整備に関する事項について運航規程及び整備規程を定め、国土交通大臣の認可を受けなければならない。

問２０　航空法施行規則第２２１条の２（安全上の支障を及ぼす事態の報告）において（ａ）～（ｄ）のうち、正しいものはいくつあるか。（１）～（４）の中から選べ。

（ａ）航空機に装備された安全上重要なシステムが正常に機能しない状態となつた事態
（ｂ）非常用の装置又は救急用具が正常に機能しない状態となつた事態
（ｃ）運用限界の超過又は予定された経路若しくは高度からの著しい逸脱が発生した事態
（ｄ）飛行中航空保安施設の機能の障害その他の航空機の航行の安全に影響を及ぼすおそれがあると認められる事態

（１）　１　　（２）　２　　（３）　３　　（４）　４